

予報期間 12月23日から12月29日まで

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 25日は、低気圧が日本の東へ進み、26日にかけて日本付近は冬型の気圧配置となる。
- 27日は、高気圧が本州付近へ移動して、冬型の気圧配置は緩む。
- 28日は、高気圧が日本の東へ移動して、気圧の谷が日本付近へ進む。
- 29日は、気圧の谷が日本の東へ進み、低気圧が中国東北区へ進む。

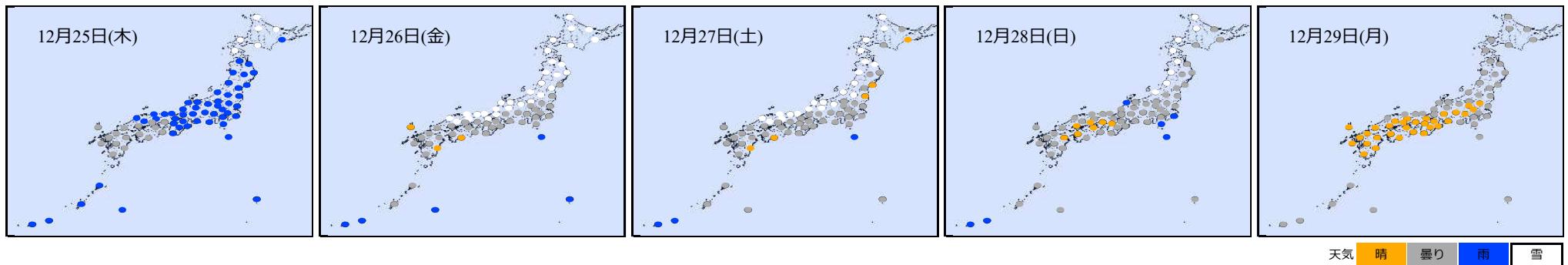
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 26日は冬型の気圧配置となるため、北日本から西日本にかけての日本海側を中心に荒れた天気となり、冬型の気圧配置の強まりの程度等によっては東日本日本海側を中心に大荒れや警報級の大雪となる可能性がある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

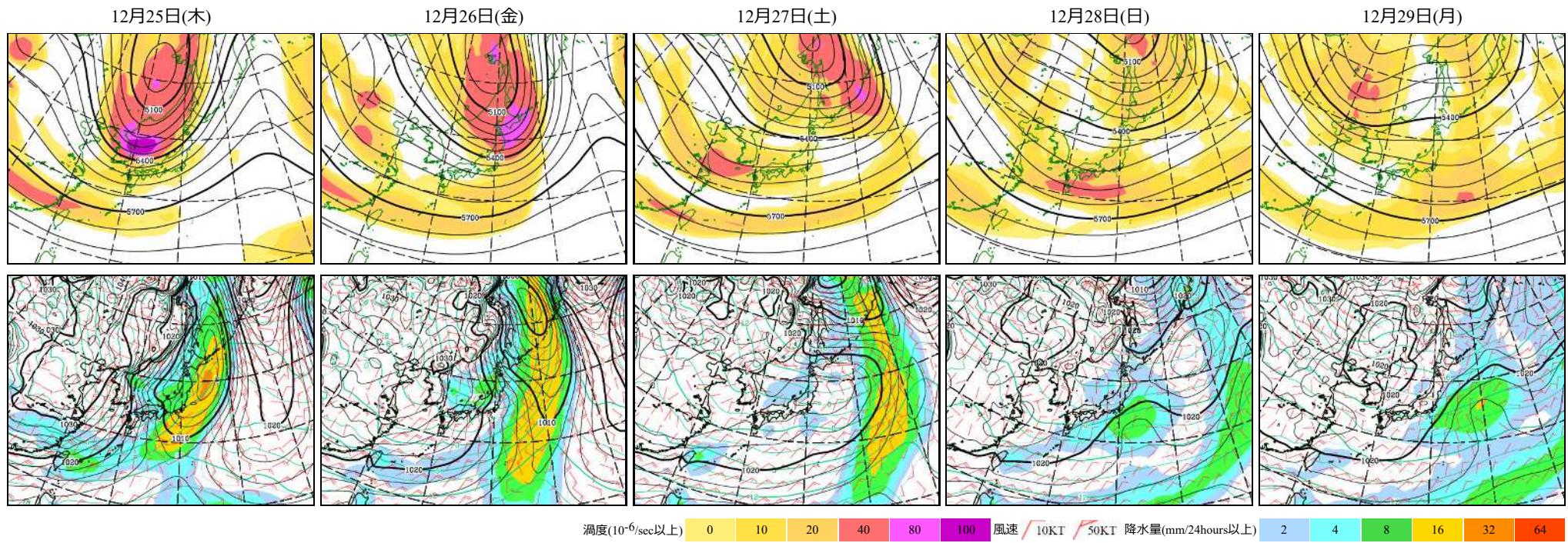
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

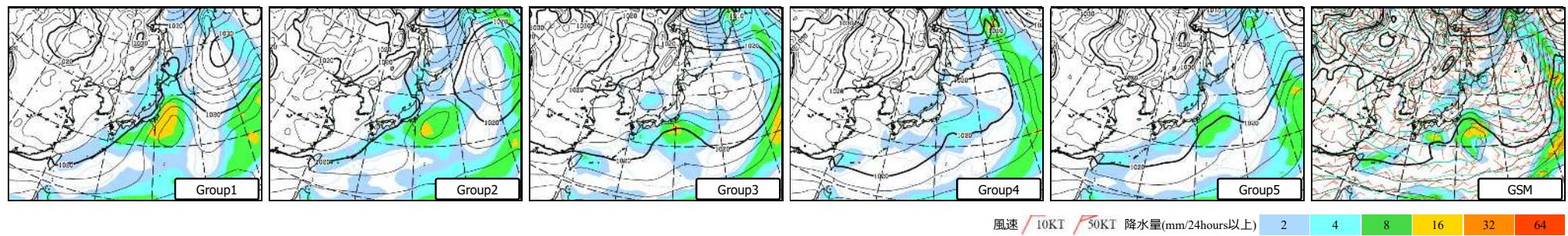


- 北日本と東日本から西日本にかけての日本海側は、曇りや雪または雨の降る日が多い。
- 東日本から西日本にかけての太平洋側は、曇りや晴れの日が多いが、25日は雨の降る所が多い。
- 沖縄・奄美は、曇りや雨の降る日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆12月28日のENSクラスター平均(グループ1～5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料（ENS）は、25日から26日は日本付近を通過するトラフが深くなり、日本の東へ進む低気圧が強まった。このため、26日は寒気の南下が強まり、北日本と東・西日本日本海側の降水確率が大きくなかった。また、28日は北日本付近を通過する気圧の谷が明瞭となり、北日本日本海側を中心に降水確率が大きくなつた。
- 各モデルとも、25日から26日は日本付近を通過するトラフが深くなり、26日を中心に冬型の気圧配置が強まる予想はおおむね揃っている。28日から29日の伊豆諸島付近の低気圧は、GSMは明瞭な一方、海外モデルは日本の東へ遠ざかる予想になった。
- スプレッドは、期間の終わりはやや大きくなり、5400mの特定高度線のばらつきが大きい。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。